



2024年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年7月13日

上場会社名 東宝株式会社 上場取引所 東・福
コード番号 9602 URL <https://www.toho.co.jp/>
代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)松岡宏泰
問合せ先責任者 (役職名)上席執行役員コーポレート本部経理財務担当 (氏名)加藤陽則 (TEL) 03(3591)1218
四半期報告書提出予定日 2023年7月13日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年2月期第1四半期の連結業績(2023年3月1日~2023年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収入		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年2月期第1四半期	74,153	19.9	18,324	28.4	18,802	18.8	12,291	6.7
2023年2月期第1四半期	61,865	—	14,273	—	15,829	—	11,516	—

(注) 包括利益 2024年2月期第1四半期 18,916百万円(74.1%) 2023年2月期第1四半期 10,867百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
2024年2月期第1四半期	70.41	—	—	—
2023年2月期第1四半期	65.22	—	—	—

(注) 2023年2月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しており、2023年2月期第1四半期に係る各数値は当該会計基準等を適用した後の金額となっていることから、増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年2月期第1四半期	547,482	435,322	76.8
2023年2月期	534,097	423,691	76.6

(参考) 自己資本 2024年2月期第1四半期 420,714百万円 2023年2月期 409,306百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円	円	円	円	円
2023年2月期	—	20.00	—	40.00	60.00
2024年2月期	—	—	—	—	—
2024年2月期(予想)	—	20.00	—	40.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 2024年2月期の連結業績予想(2023年3月1日~2024年2月29日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収入		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円
通期	260,000	6.4	45,000	0.3	48,000	0.4	31,000	△7.3	177.57

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2024年2月期1Q	186,490,633株	2023年2月期	186,490,633株
2024年2月期1Q	11,916,073株	2023年2月期	11,915,882株
2024年2月期1Q	174,574,680株	2023年2月期1Q	176,564,777株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述などについてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料は、TDnetで同日開示するとともに、当社ホームページにも掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(会計方針の変更)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルスの感染症法上の分類が5類へ移行され、社会経済活動の正常化が進み、景気に改善の動きがみられる一方で、海外景気の下振れリスクや物価上昇の影響などにより、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような情勢下にあつて当社グループでは、2022年4月に策定した「中期経営計画 2025」の各事業戦略の推進と数値目標達成に向けて2年目をスタートいたしました。当第1四半期連結累計期間における経営成績は、営業収入は741億5千3百万円（前年同四半期比19.9%増）、営業利益は183億2千4百万円（同28.4%増）、経常利益は188億2百万円（同18.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は122億9千1百万円（同6.7%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は以下のとおりです。

映画事業

映画営業事業では、東宝(株)において、共同製作や配給した作品のうち、「名探偵コナン 黒鉄の魚影」が「名探偵コナン」シリーズ作品で初めて興行収入100億円を突破する大ヒット、「映画ドラえもん のび太と空の理想郷」「劇場版『TOKYO MER～走る緊急救命室～』」「わたしの幸せな結婚」もヒットいたしました。また、東宝東和(株)が配給した「ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー」が大ヒット、「ワイルド・スピード/ファイヤーブースト」もヒットいたしました。これらの結果、映画営業事業の営業収入は13,859百万円（前年同四半期比18.2%増）、営業利益は5,798百万円（同20.8%増）となりました。なお、上記営業収入の主な内訳として、映画館への配給が11,381百万円（前年同四半期比34.3%増）、劇場用映画の国内配信が290百万円（同58.9%減）となりました。

映画興行事業では、TOHOシネマズ(株)等において、上記配給作品等を上映いたしました。当第1四半期連結累計期間における映画館入場者数は12,397千人と前年同四半期比25.2%の増加となりました。なお、TOHOシネマズ(株)では、ゴールデンウィーク期間（4月29日～5月7日）において、興行収入の歴代最高記録を達成いたしました。これらの結果、映画興行事業の営業収入は23,207百万円（前年同四半期比33.8%増）、営業利益は4,668百万円（同123.5%増）となりました。当第1四半期連結累計期間中の劇場の異動につきましては、TOHOシネマズ(株)が2023年4月17日に大阪府門真市「TOHOシネマズ ららぽーと門真」（9スクリーン）をオープンいたしました。これにより、当企業集団の経営するスクリーン数は全国で9スクリーン増の730スクリーン（共同経営56スクリーンを含む）となっております。

映像事業では、東宝(株)において、「僕のヒーローアカデミア」「呪術廻戦」「SPY×FAMILY」「BLUE GIANT」「Dr. STONE」「ちびゴジラ」等、製作出资いたしましたTOHO animation作品の国内外の配信・商品化権収入に加え、各種配分金収入がありました。パッケージ事業では「シン・ウルトラマン」に加え、TOHO animation作品の「お兄ちゃんはおしまい!」「お隣の天使様にいつの間にか駄目人間にされていた件」の販売が伸びました。出版・商品事業では、劇場用パンフレット、キャラクターグッズにおいて「名探偵コナン 黒鉄の魚影」「映画ドラえもん のび太と空の理想郷」「わたしの幸せな結婚」をはじめとする当社配給作品や、「ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー」の販売が好調に推移いたしました。TOHOスタジオ(株)では、制作及びスタジオ事業の一体運営を図り、堅調に稼働いたしました。(株)東宝映像美術及び東宝舞台(株)では、映画やTV・CM等での舞台製作・美術製作やテーマパークにおける展示物の製作業務に関して受注持ち直しの動きに加え、原価低減に努めました。これらの結果、映像事業の営業収入は13,859百万円（前年同四半期比32.5%増）、営業利益は2,688百万円（同14.8%増）となりました。なお、上記営業収入の主な内訳として、アニメコンテンツの利用が5,245百万円（前年同四半期比35.4%増）、パッケージの販売が1,246百万円（同14.7%増）、映像作品等に係る美術製作が1,960百万円

(同19.1%増)となりました。

以上の結果、映画事業全体では、営業収入は50,925百万円(前年同四半期比28.8%増)、営業利益は13,155百万円(同42.5%増)となりました。

演劇事業

演劇事業では、大人気コミック「SPY×FAMILY」初のミュージカル化を帝国劇場にて実現し全席完売となりました。帝国劇場におきまして、「Endless SHOCK (Endless SHOCK/ Endless SHOCK Eternal)」を上演し盛況に推移いたしました。シアタークリエにおきましては「RENT」「She Loves Me」等を上演し、よこすか芸術劇場ではファイナル公演として話題となった松本白鸚の「ラ・マンチャの男」が大入りとなりました。また、「キングダム」を梅田芸術劇場や博多座など全国で上演いたしました。東宝芸能㈱では、所属俳優がCM出演等で好調に推移いたしました。

以上の結果、演劇事業の営業収入は5,385百万円(前年同四半期比18.1%増)、営業利益は1,212百万円(同64.4%増)となりました。

不動産事業

不動産賃貸事業では、オフィス市況の変化など引き続き厳しい状況下にありましたが、保有物件の有効活用に努めつつ、テナントに対するきめ細かな対応により、賃貸用不動産の空室率は、当第1四半期連結会計期間末において0.8%となりました。これらの結果、不動産賃貸事業の営業収入は7,269百万円(前年同四半期比4.7%増)、営業利益は3,302百万円(同9.1%増)となりました。

道路事業では、公共投資が底堅く推移しましたが、慢性的な人手不足や労務費・資機材価格の上昇が継続する等、依然として予断を許さない状況が続きました。このような状況の中、スバル興業㈱と同社の連結子会社は、積極的な営業活動に努めましたが、発注や完工時期が翌四半期以降へずれ込む工事が一部ありました。その結果、道路事業の営業収入は7,768百万円(前年同四半期比3.5%減)、営業利益は1,632百万円(同16.0%減)となりました。なお、営業収入の主な内訳は、道路の維持管理・清掃等7,140百万円(前年同四半期比4.3%減)であり、またその他の収益209百万円(同7.0%増)が含まれております。

不動産保守・管理事業では、東宝ビル管理㈱及び東宝ファシリティーズ㈱において、人手不足や人件費・原材料費の増加が継続する一方、延期になっていた工事の実施等がありました。その結果、営業収入は2,498百万円(前年同四半期比0.3%増)、営業利益は225百万円(同1.1%増)となりました。

以上の結果、不動産事業全体では、営業収入は17,535百万円(前年同四半期比0.3%増)、営業利益は5,160百万円(同0.6%減)となりました。

その他事業

東宝共榮企業㈱の「東宝調布スポーツパーク」やTOHOリテール㈱の劇場売店等において、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う行動制限の緩和により、消費行動に変化が見られる中、積極的な営業活動に努めました。その結果、その他事業の営業収入は305百万円(前年同四半期比2.7%増)、営業利益は51百万円(同10.5%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における財政状態は、前連結会計年度末と比較して、総資産は13,385百万円増加し、547,482百万円となりました。これは現先短期貸付金で11,999百万円の減少がありましたが、現金及び預金で3,677百万円、受取手形、売掛金及び契約資産で4,949百万円、有価証券で4,007百万円、投資有価証券で6,972百万円の増加があったこと等によるものです。

負債では前連結会計年度末から1,754百万円増加し、112,159百万円となりました。

純資産は前連結会計年度末と比較して11,631百万円増加し、435,322百万円となりました。これは利益剰余金で5,295百万円の増加、その他有価証券評価差額金で5,939百万円の増加があったこと等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

主力の映画事業において「名探偵コナン 黒鉄の魚影」「ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー」等の大ヒットに加え、TOHO animation作品の各種事業展開が好調だったほか、演劇事業、不動産事業も堅調に推移いたしました。こうした状況を踏まえ、営業収入、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益が前回発表の予想を上回る見込みとなりました。

以上により、2023年4月13日付「2023年2月期決算短信」において公表しました2024年2月期通期の業績予想を下記のとおり修正しております。

2024年2月期の連結業績予想数値の修正（2023年3月1日～2024年2月29日）

	営業収入	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	253,000	40,000	43,000	28,000	159.44
今回修正予想 (B)	260,000	45,000	48,000	31,000	177.57
増減額 (B-A)	7,000	5,000	5,000	3,000	—
増減率 (%)	2.8	12.5	11.6	10.7	—
(ご参考) 前期実績 (2023年2月期)	244,295	44,880	47,815	33,430	190.37

(注) 上記業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであって様々な不確定要素が内在しており、その実現を確約するものではありません。実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性がありますので、ご承知おきください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	44,259	47,937
受取手形、売掛金及び契約資産	32,921	37,871
有価証券	44,986	48,994
棚卸資産	11,003	12,759
現先短期貸付金	64,999	52,999
その他	26,627	26,378
貸倒引当金	△89	△80
流動資産合計	224,708	226,859
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	85,434	85,868
土地	80,475	80,700
建設仮勘定	2,749	3,992
その他（純額）	8,792	9,676
有形固定資産合計	177,451	180,237
無形固定資産		
のれん	2,032	1,971
その他	2,920	3,115
無形固定資産合計	4,953	5,086
投資その他の資産		
投資有価証券	108,499	115,471
その他	18,567	19,910
貸倒引当金	△82	△83
投資その他の資産合計	126,984	135,298
固定資産合計	309,388	320,623
資産合計	534,097	547,482

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年5月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	30,773	32,177
短期借入金	53	48
1年内返済予定の長期借入金	59	60
未払法人税等	9,782	4,553
賞与引当金	1,008	1,471
その他の引当金	168	150
資産除去債務	52	52
その他	23,864	25,761
流動負債合計	65,762	64,274
固定負債		
長期借入金	326	312
退職給付に係る負債	3,437	3,498
役員退職慰労引当金	178	154
その他の引当金	86	86
資産除去債務	7,117	7,221
その他	33,498	36,611
固定負債合計	44,643	47,885
負債合計	110,405	112,159
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,355	10,355
資本剰余金	14,180	14,179
利益剰余金	404,225	409,520
自己株式	△38,866	△38,867
株主資本合計	389,894	395,188
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	17,092	23,032
土地再評価差額金	800	800
為替換算調整勘定	2,110	2,259
退職給付に係る調整累計額	△592	△566
その他の包括利益累計額合計	19,411	25,525
非支配株主持分	14,384	14,608
純資産合計	423,691	435,322
負債純資産合計	534,097	547,482

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2022年3月1日 至2022年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2023年3月1日 至2023年5月31日)
営業収入	61,865	74,153
営業原価	32,639	39,416
売上総利益	29,226	34,736
販売費及び一般管理費		
人件費	4,587	5,048
広告宣伝費	1,761	1,931
賞与引当金繰入額	467	509
退職給付費用	278	295
役員退職慰労引当金繰入額	7	7
借地借家料	2,149	2,378
その他	5,699	6,240
販売費及び一般管理費合計	14,952	16,412
営業利益	14,273	18,324
営業外収益		
受取利息	24	169
受取配当金	51	57
持分法による投資利益	238	78
為替差益	1,125	129
その他	131	104
営業外収益合計	1,570	540
営業外費用		
支払利息	1	1
子会社清算損	—	51
その他	12	7
営業外費用合計	14	61
経常利益	15,829	18,802
特別利益		
固定資産売却益	75	—
助成金収入	1,419	—
特別利益合計	1,494	—
特別損失		
投資有価証券評価損	28	—
出資金評価損	—	107
特別損失合計	28	107
税金等調整前四半期純利益	17,296	18,695
法人税、住民税及び事業税	4,937	5,574
法人税等調整額	177	319
法人税等合計	5,115	5,893
四半期純利益	12,181	12,802
非支配株主に帰属する四半期純利益	665	510
親会社株主に帰属する四半期純利益	11,516	12,291

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年5月31日)
四半期純利益	12,181	12,802
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,476	5,936
為替換算調整勘定	138	148
退職給付に係る調整額	29	25
持分法適用会社に対する持分相当額	△5	3
その他の包括利益合計	△1,313	6,114
四半期包括利益	10,867	18,916
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	10,202	18,405
非支配株主に係る四半期包括利益	665	510

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年5月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	17,296	18,695
減価償却費	2,295	2,429
貸倒引当金の増減額(△は減少)	10	△7
受取利息及び受取配当金	△76	△226
支払利息	1	1
持分法による投資損益(△は益)	△238	△78
投資有価証券評価損益(△は益)	28	—
売上債権及び契約資産の増減額(△は増加)	△3,356	△4,948
棚卸資産の増減額(△は増加)	△17	△1,752
仕入債務の増減額(△は減少)	1,508	1,402
未払消費税等の増減額(△は減少)	△69	496
その他	1,702	4,848
小計	19,085	20,860
利息及び配当金の受取額	142	345
利息の支払額	△6	△7
法人税等の支払額	△9,722	△10,512
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,498	10,685
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△10,199	△14,199
有価証券の売却による収入	12,800	12,800
有形固定資産の取得による支出	△4,515	△7,434
有形固定資産の売却による収入	362	0
投資有価証券の取得による支出	△2,001	△1,001
貸付けによる支出	△21	△0
貸付金の回収による収入	14	1
金銭の信託の取得による支出	△300	—
金銭の信託の解約による収入	2,300	—
その他	△405	△2,248
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,966	△12,082
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△4	△5
長期借入金の返済による支出	—	△12
自己株式の取得による支出	△2	△1
配当金の支払額	△4,740	△6,822
非支配株主への配当金の支払額	△202	△199
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△0	△1
リース債務の返済による支出	△3	△68
その他	—	9
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,953	△7,100
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,217	175
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	3,795	△8,321
現金及び現金同等物の期首残高	92,341	112,121
現金及び現金同等物の四半期末残高	96,136	103,800

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2022年3月1日 至 2022年5月31日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	映画 事業	演劇 事業	不動産 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	39,528	4,561	17,477	61,568	297	61,865	—	61,865
セグメント間の内部売上高 又は振替高	588	17	1,269	1,874	40	1,915	△1,915	—
計	40,117	4,578	18,747	63,443	338	63,781	△1,915	61,865
セグメント利益又は損失(△)	9,230	737	5,193	15,161	57	15,219	△946	14,273

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、スポーツ施設の経営事業等を含んでおります。
2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△946百万円は、セグメント間取引消去9百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△956百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2023年3月1日 至 2023年5月31日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	映画 事業	演劇 事業	不動産 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	50,925	5,385	17,535	73,847	305	74,153	—	74,153
セグメント間の内部売上高 又は振替高	538	4	1,280	1,823	49	1,873	△1,873	—
計	51,464	5,390	18,816	75,671	355	76,026	△1,873	74,153
セグメント利益又は損失(△)	13,155	1,212	5,160	19,528	51	19,579	△1,255	18,324

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、スポーツ施設の経営事業等を含んでおります。
2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,255百万円は、セグメント間取引消去△3百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,252百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。